

画像:デジタル庁 Digital Agency

見出し:情報アクセシビリティに関する取り組みのご紹介

デジタル庁 戦略・組織グループ 統括官付参事官補佐 坂本 秋彦

2023.11.8

見出し:コンテンツ

リスト 4項目

1. 自己紹介
 2. デジタル庁のミッション・ビジョン・バリュー
 3. アクセシビリティチームについて
 4. デジタル庁での取り組みのご紹介
- リストの終わり

01

見出し:自己紹介

自己紹介

見出し: 坂本秋彦

画像:坂本秋彦の顔写真

2022年1月からデジタル庁参事官補佐

デジタル庁において、政府共通ウェブサイトプロジェクト、デジタル庁ウェブサイトの運営、サービスデザイン、ウェブアクセシビリティ、オープンガバメント等を担当

02

見出し: デジタル庁のミッション・ビジョン・バリュー

見出し: デジタル庁のミッション・ビジョン・バリュー

リスト 3項目

- ・ミッション 誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を。
 - ・ビジョン 優しいサービスのづくり手へ。大胆に革新していく行政へ。
 - ・バリュー 一人ひとりのために 常に目的を問い あらゆる立場を超えて 成果への挑戦を続けます
- リストの終わり

03

見出し:アクセシビリティチームについて

見出し:アクセシビリティチームについて

画像:アクセシビリティチームの組織概要図。サービスデザインユニットに含まれるチームの1つにアクセシビリティチームがある。

サービスデザインユニットに所属
視覚障害当事者2名を含むアクセシビリティアナリスト4名で構成

04

見出し:アクセシビリティは誰のためか

アクセシビリティは誰のためか

見出し:アクセシビリティは他人事ではなく自分事

左側のテキスト:アクセシビリティを担保すること

中央上側の右斜め上向きの矢印内に短期的な効果

右上のテキスト:障害を持つ人の情報の取得性が向上

中央下側の右斜め下向きの矢印内に長期的な効果

右下のテキスト:データの再利用性が上がり、様々な機器で利用可能に

05

見出し:デジタル庁での取り組みのご紹介

デジタル庁での取り組みのご紹介

見出し: デザインシステム

2022年11月公開

デザインシステムのURL

色覚特性やディスレクシアなどにも配慮したUIライブラリを提供

随時アップデート中

画像:カラースキーム、タイポグラフィーを表現した図

デジタル庁での取り組みのご紹介

見出し:ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック

初めて取り組む行政官や事業者向けの資料

考え方、概要、取り組み方のポイントを解説

JIS X8341以降アップデートされたWCAG2.1の要件を取込み

実装イメージを豊富に採用

ポイントがわかる

リスト 4項目

・何をどう取り組むか

・調達への組み込み方

・委託事業者とのコミュニケーション

・意思決定のポイント

リストの終わり

:

画像 ウェブアクセシビリティ導入ガイドブックの表紙

デジタル庁での取り組みのご紹介

見出し: ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック

2022年12月公開

ウェブアクセシビリティ導入ガイドブックのURL

読者からのフィードバックを反映し、5回の更新を実施

現在はPDFにて公開。今後HTML版を作成予定

画像:ウェブアクセシビリティ導入ガイドブックの表紙に円形の矢印が追加された図。

デジタル庁での取り組みのご紹介

見出し: デジタル社会推進標準ガイドライン群

サービス・業務改革並びにこれらに伴う政府情報システムの整備及び管理についての手続・手順や、各種技術標準等に関する共通ルールや参考ドキュメントをまとめたもの
標準ガイドラインページのURL

リスト 3項目

・DS-100 デジタル・ガバメント推進標準ガイドライン

・DS-110 デジタル・ガバメント推進標準ガイドライン解説書

・DS-120 デジタル・ガバメント推進標準ガイドライン実践ガイドブック

リストの終わり

2022年4月20日更新

デジタル庁での取り組みのご紹介

見出し: デジタルガバメント推進標準ガイドライン

a) ユーザビリティ及びアクセシビリティに関する事項 (53ページから54ページ) 以下省略

デジタルガバメント推進標準ガイドライン > 第3編 ITマネジメント > 第5章 要件定義 > ウ 非機能要件

デジタル庁での取り組みのご紹介

見出し: デジタルガバメント推進標準ガイドライン

昨年4月の更新のタイミングで、前述の内容を追記

リスト 3項目

・情報アクセシビリティ自己評価様式だけでなく、JIS X 8341などを用いて情報アクセシビリティへの対応状況または対応予定を確認することを妨げない

・標準ガイドラインそのものは調達仕様書で引用されるものであるが、デジタル庁においては、現時点では調達仕様書等への自己評価様式の活用に関する記載などは行っていない

・デジタル庁としても、今後も情報アクセシビリティ自己評価様式の活用について総務省に協力していく

リストの終わり

画像: デジタル・ガバメント推進標準ガイドラインの表紙

デジタル庁での取り組みのご紹介

見出し: 情報アクセシビリティに関するご意見募集結果#1

令和5年3月、視覚障害者またはその支援者、ITツールの開発者を対象に、普段使っている支援技術やウェブサイト、アプリなどについて広く体験談を募集

ウェブサイト・アプリケーション

表がtableタグでマークアップされていないと音声読み上げソフトで表として閲覧できない。テーブルの見出しや本文が分けられているとテーブル内の項目がどの見出しに含まれるか判別できない。テキスト化されていない画像やPDFファイルが多く存在し、音声読み上げソフトで読み上げられず苦慮している。

視覚と聴覚両方に障害があるが、視覚障害者向けのアプリは音声にだけ対応していることが多い。日付を入力する項目がカレンダーで表示され、キーボードによる操作では選択できないことがある。音声読み上げソフトに対応していないウェブサイトやアプリが多い。動く光に過敏に反応してしまうため、アクセスすると自動でスクロールされるウェブサイトは困る。

タッチパネル

セルフレジや飲食店でのオーダー、チケット購入にタッチパネルが導入される事例が増え、利用が難しい。タッチパネルをスマートフォンに連動し、アプリで操作できるようにしてほしい。

精算機の画面のコントラスト比が低く、文字が認識しにくい。

特定のウェブサイト・アプリケーションに関する要望

キャッシュレス決済アプリの画面のアイコンに文字情報がなく、「ボタン」としか読み上げなかったり、無音の箇所があり、使いづらい。

ラジオアプリがアップデートにより音声読み上げソフトに対応しなくなった。

e-taxで確定申告を行う際、入力フォームの勘定科目を読み上げなかったり、タブキーと矢印キーで移動する順序が異なり、どの項目に移動したのかわからなくなる。音声読み上げソフトだけで確定申告を完結できるようにしてほしい。

店舗アプリで配布されるクーポンが画像のため、何に使用できるのかわからない。

音声読み上げソフトを利用してネットバンキングで振り込みを行う際、口座名義人が読み上げられない。

ショッピングサイトは画像が多く、アクセシビリティに配慮されていないと感じる。画像にテキストの説明をつけるとともに、色などの情報も記載してほしい。

視覚障害者の歩行を支援するアプリを使用している。支援者とビデオ通話を行い、リアルタイムで道路状況や障害物を教えてもらっている。AIにより障害物を検知し、歩行を支援するシステムに期待を寄せているが、AIの風景認識能力や使用者に対し状況をどのように伝えるかが課題と考えている。

情報機器

日本製の情報機器や電化製品はアクセシビリティに関する機能が標準搭載されていないことが多い。PCやソフト、ウェブサイトにおいてアクセシビリティ機能を利用する際、色やフォントサイズの変更方法が複雑で設定に手間がかかる。

デジタル庁での取り組みのご紹介

見出し: 情報アクセシビリティに関するご意見募集結果#2

認証方法

不正ログインを防止する画像認証・パズル認証が自力で利用できない。

セキュリティが低いという理由でメールによる認証が減っている。メールや電話、SMSでの認証を増やしてほしい。

ウェブ上でネットバンキングやクレジットカードの手続きを行う際に操作時間が足りずタイムアウトとなる。マイナンバーカードの公的個人認証サービスを利用した本人確認を拡大すべき。

空港の入出国手続きで導入されている顔認証ゲートは視線が合わないと認証できず、利用が難しい。ネットバンキングやキャッシュレス決済の登録を行う際に身分証明書の画像添付を求められることが多い。また、自分自身をカメラで撮影することを求められる場合もある。

日常生活用具給付等事業

点字情報端末が高額のため、在宅用と外出用でサイズの異なるものを購入すると負担が大きい。ウェブサイトのセキュリティが強化され、従来の端末でアクセスできなくなる場合がある。日常生活用具給付を利用する場合、耐用年数を経過しないと給付を受けられない。自治体によって給付対象となる道具や基準額が異なり、格差が生じている。基準額内に収まる製品は少ないにも関わらず、基準額の見直しが行われない。自治体職員が支援技術に関する知識を持っておらず、制度の見直しが難しい。補装具や日常生活用具に挙げられている品目・ジャンル・耐用年数が旧態依然で現状に即していない。PCやスマートフォン、タブレット端末を給付対象に加えるべき。

安全確保

自転車が行走していても気付かない。疑似的な走行音を発生させてほしい。ホームドアが設置されている駅が少ない。地方の無人駅では駅員による案内を受けられず、危険箇所を把握することが難しい。視覚と聴覚に障害を抱えており、災害発生時の避難に不安を感じる。

テレビ放送・動画投稿サイト

ニュース番組等で外国語の音声をそのまま流し、日本語訳は字幕で表示することがある。字幕やテロップが音声読み上げに対応していない。テレビや動画投稿サイトのコンテンツに映像を解説する副音声をつけてほしい。

支援体制

視覚障害者向けに音声読み上げソフト等を利用したPCやスマートフォン、タブレット端末の使い方を教える場が少ない。日常で使用するだけでなく、仕事ができるレベルの指導を受けられる場も設けて欲しい。ロービジョン向けにPC等のアクセシビリティ機能の使い方を教えてくれる場が少ない。支援者のボランティア活動に依存している。スマートフォンのカメラを使って視覚障害者の移動を支援するなど、遠隔での支援ニーズが高まっている。

デジタル庁での取り組みのご紹介

見出し: 情報アクセシビリティに関するご意見募集結果#2

マイナンバーカード

鍼灸マッサージの施術所を営んでいる。マイナンバーカードを健康保険証として使用する場合、保険証の情報にどのようにアクセスすればよいのかわからない。マイナンバーカードには凸凹や切り欠きがないため、表裏や上下が判別できない。マイナンバーカードを健康保険証として使用する際のアクセシビリティが確保されているか不安を感じている。

行政機関

行政手続きは紙の印刷を求められることが多い。オンラインで手続きを完結することを義務化すべき。行政機関のLINEの公式アカウントにおいて、メニューにラベルがついておらず、何の項目かわからない。

デジタル庁アイデアボックス

画面のコントラスト比が低く、視認しにくい。フォントサイズや画面の色の設定を変更できない。音声読み上げソフトだけでアイデア投稿するのは難しい。レイアウトを工夫すべき。ウェブサイト上にアイデアを投稿するまでの具体的な流れを記載すべき。

その他

音声コードのついている郵便物が少ない。せめて行政機関の郵便物には音声コードをつけてほしい。音声読み上げソフトの漢字の読み方がおかしいときがある。点字翻訳において例外的なルールが多いとともに、地域特有のルールも存在している。点字翻訳された書籍が少ない。音声で情報を得るのは時間がかかり、再生速度を上げてても限界がある。二次元コードがどこにあるかわからず、読み取りが難しい。視覚障害に対するアクセシビリティ対策は全盲にフォーカスされることが多い。ロービジョンの見え方

の多様性が社会に理解され、対策が進むことを願う。
スマートフォンの普及により、情報通信機器を使いこなせるか否かで健常者と視覚障害者との格差、視覚障害者同士での格差が広がったように感じる。カセットテープや点字を利用していた時代は、障害者間の格差はそこまで大きくなかった。

画像: デジタル庁 Digital Agency

THANK YOU!